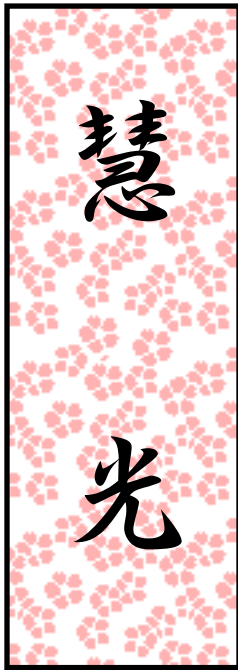




▲ ビックリ! もう水仙咲いています! (2月9日撮影・仏原)



金光寺寺報
第224号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

生のみが 我らにあらす 死もまた 我らなり

今月のことばは、清沢満之師が明治時代に
発行された雑誌『精神界』の所収論文で、
「絶対他力の大道」に出ているものです。

現代社会では、死生観や死生学という言葉
が注目されており、死が根本にあって生を考
えることを基本としています。死を見つめて
生きる、死を覚悟して生きる、あるいは、い
かに生きるかということを生まで深く掘り下
げて考える学問が、死生学です。このような
死生観が生命(いのち)の問題と密接にかか
わってきます。仏教では、生と死を一緒にし
て「生死」(しょうじ・サンサーラ)といい、
それは迷いの世界を生まれ変わり死に変わり
するという「輪廻」という語と同じ意味にな
ります。

親鸞聖人は『高僧和讃』に「五濁悪世の
われらこそ 金剛の信心ばかりにて ながく

生死をすてはてて 自然の浄土にいたるな
れ」「金剛堅固の信心の さだまるときをま
ちえてぞ 弥陀の心光 撰護して ながく生
死をへだてける」と述べられています。

前の和讃では、『阿弥陀経』にある、劫濁・
見濁・煩惱濁・衆生濁・命濁の悪世界に生
きる私たちだからこそ、阿弥陀如来から回向
される金剛の真実信心によってこそ、永く生
死という迷いの世界を離れて、さとりの世界
である浄土に生まれることができる、と述べ
られています。後の和讃では、何ものにも妨
げられない金剛堅固の信心が私の身に定まっ
たときに、阿弥陀如来の智慧の光明は、煩惱
具足の私たちを撰め取って、迷いの世界から
さとりの世界へ導いてくださる、と述べられ
ています。(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載
『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事は休み
ます。よろしく申し上げます。

- ◎ 2 月
17日(月) 終 日後
20日(木) 午 後
◎ 3 月
4日(水) 終 日 後
5日(木) 午 後
8日(日) 終 日 後
20日(金) 終 日 後
23日(月) 終 日 後
28日(土) 終 日 後

1月、次の金光寺門信徒の方がご往
生なさいました。謹んでお悔やみ申し
上げます。
2020年 1月 7日 満98歳
原尾野 藤田 マチ子様

ホームページ開いています。
URL https://konkouji.jp/
2月8日現在アクセス数 99,027人

さるのを法探モクコーもこりでの算最シ話シほうせズは大に四開瀬全ま(
いので知事シス不口番もんますなし高1は1どがんン昨雪な日始ハ体的が今こ
。ですりてま薬足ナはうなせ。花て気ズ変ズ雪い。まシでっ間以ラに、九十日
書がまマし局深肺マす状ん私粉四温ンわんがいもだ1購たほ来ラに、地日
き、シスタヤ刻炎スぐ況がハシ百のをりが降のちーズ入よど初ンは(
(ま不たくがサで流クでな、花1度合そま心らでろ度ンしう連めド暖球)
せ足。が無ンす行。すら坊粉ズを計ろす配なすんも、たで続てス冬温は
んにおあいラ。のし▼シ守症ン超がそがにいが稼稼そ当すし雪キで暖冷先
。拍教るよイ坊たか花1は患にえ元ろ、など、働働し山▼て不1す化え月
松井卓ご車え意うズ守めし粉ズ該者なる旦迎花り田逆ししての二営足場ねの込三
めがし外でなは、、対ン当でるとかえ粉ま植になて今除年業のは。影ん十一
んかたなすとコマ新策到者はそ本らます。症すえこいいシ雪前休た営五響で
)なかい所。でスス型、来。あう格合す。の▼のれほま1機の止め業ケかい日

仏教名言ノート

仏法には
原始仏教経典『一夜賢者の偈』に、
過去を追うな。
未来を願うな。
過去はすでに捨てられ、
未来はまだ来ない。
という偈があります。そしてついでに
ただ今日すべきことを熱心になせ。
明日、死のあることを誰が知るか。

かの死神の大軍と云わないわけは
ない
蓮如上人にお聞きまじょう。
蓮如上人御一代記問書』一五五条
では、蓮如上人にお聞きまじょう。
蓮如上人御一代記問書』一五五条
です。
「仏法には世間のひまを闕きてきく
べし」(仏法のことば、世間の用事を
止めても聞かぬはならぬ)
「世間の隙をあけて法をきくべきや
うに思ふこと、あさましきことなり」
(世間の用事を済ませて、ひまがあい
たとき仏法を聞こうと思ふのは、情け
ないことである)
「仏法には明日といふことはあるま
じきよしの仰せに候ふ」(仏法のこと
ば、明日にのばすべきものではない、
と仰せられた)

蓮如上人はまた一〇二条でも、「仏
法には明日と申すことあるまじく候ふ。
仏法のことばはいそげいそげ」と仰せら
れています。
この文は、無常迅速の世の中、いの
ちの問題の解決は、もっとも重大で、
もっとも緊急を要するという、蓮如上
人のお諭しの言葉でした。
ある仏教婦人会での若い会員さんの
弁です。
「今日は休みではないのですが、ど
うしてもお話が聞きたくて、有給休暇
をいただいでやって来ました」
会場には、ブーンと張りつめた空気
が流れました。
(本願寺出版社発行
辻本敬順著
「続・仏教名言ノート」から)

